式 辞

春の日差しが暖かさと明るさを増し、学校にある木々の芽も大きく膨らんできました。ここ桑野の地にも 希望に満ちた輝かしい春が訪れました。

本日、郡山副市長 吉崎 賢介（よしざき けんすけ）様

市議会議員 栗原 晃（くりはら あきら）様を初め、多くのご来賓の皆様、保護者の皆様に見守られ、盛大に卒業式が挙行できますことを心より感謝申し上げます。

卒業証書を手にしたみなさんは、今、どのような気持ちでいますか。
そして、皆さんの心の中には どのような思い出が浮かんでいますか。

みなさんが6年に進級する時、転入生が1名来ることを、私は最後の最後まで心待ちにしていました。しかし、願いがかなわず、法令により3クラスから2クラスに。皆さんには、とても不安な思いをさせてしまいました。

私は、毎日のように廊下から様子を見ていましたが、授業や日常生活の中で、担任やクラスメイトとの温かいまなざしや思いやりのある態度に日々触れ、みなさんが新しい環境で豊かな心を育ててきたことをとてもうれしく感じました。

市内陸上交歓会では、ほぼ8割近くの子が見事入賞。あわせて、市内総合8位以内がなんと6名も。

水泳交歓会、女子200メートルリレーでは、「今年は優勝がねらえるぞ」と、開成山屋内プールで練習したりなど、優勝を目指してきましたが、中止になり 悔し涙を流したこともありました。

市合唱祭では、文化センター大ホールで鑑賞していた方々へ、きれいな歌声を届け、感動を与えました。

このように、皆さんは、桑野小学校の頼れるリーダーとして、下級生からのあこがれの先輩として、その務めを見事に果たしてきました。

さて、東日本大震災の後に、被災地を中心に注目された「夜と霧」という本があります。

作者、ビクトール・フランクルは、次の言葉を残しています。

「どんな時も、人生には意味がある」

「あなたを待っている『誰か』がいて、

あなたを待っている『何か』がある。」

「そして、その『何か』や『誰か』のために、あなたにもできることがある と。

私は みなさんの未来を信じています。

みなさんは、校長室で一緒に給食を食べながら、将来の夢や目標を 語ってくれました。

やがて社会に出たときに、豊かな人生を歩み、これからのふくしま、そして、世界に貢献する人になることを心から願っています。

保護者の皆様、お子さんのご卒業、誠におめでとうございます。

本日を迎えるまで、多くのご心配やご苦労があったことと思いますが、
今、立派に成長したお子さんの姿に接し

喜びもひとしおのことと思います。このように、立派に育てられた保護者の皆様のご努力に

心から敬意を表します。

ご来賓の皆様方、本日はお忙しい中を、ご臨席くださり、誠にありがとうございました。

心より感謝申し上げます。

結びになりますが、

さらなる成長を続ける子どもたちの健やかな成長と これからの活躍をお祈り申し上げ、併せて、ご臨席をいただきました皆様方のご健勝とご多幸を祈念しまして、式辞といたします。

平成31年3月22日

郡山市立桑野小学校長 吾妻 敦